

町内外からの大勢の人が 屋形海岸で初日を拝む



町内外から大勢の人たちが訪れた屋形海岸

今年の正月3ヶ日は、穏やかな日和に恵まれたこともあって、各地の神社・仏閣では多くの参拝客で賑いを見せたようですが、元旦の屋形海岸にも初日を拝もうと、町内外から家族連れや若者のグループなど大勢の人たちが訪れました。

午前6時50分、東の空が真っ赤に染まり始めると、「ドドン」と花火が打ち上げられ、訪れたみなさんは、水平線からゆっくり昇る初日を思い思いに拝んでいました。

元旦の屋形海岸では、6年前から町観光協会、商工会、生き活き横芝まちづくり推進協議会のみなさんによる「あま酒サービス」が行われており、訪れる人も年々増加。今年は昨年を更に上回る人出となりました。



水平線の雲間からゆっくりと初日が顔を覗かせました



篝火は、輪を作る人たちの顔を赤く染めながら
間空高く舞い上がっていました

うぶすなさま
産土様の境内で

はつもうで
かがりび
初詣・篝火

12月31日の大晦日から元旦の朝にかけ、屋形地区の産土様（屋形四社神社）の境内で、篝火を焚き、氏子たちが聖火で心身を清める初詣・篝火が行われました。

この初詣・篝火は、五穀豊穡と家運繁栄を祈り、古くは屋形地区全体の大勢の氏子が集まって盛大に行われていたようですが、時代とともに衰退。30年以上も前に中止になってしまいましたが、三本松地区の有志のみ

なさんが「古くからの神聖な行事を復活させよう」と四社神社の総代の方々に相談して、4年前から再び行われるようになったそうです。

大晦日の午後7時、神役によって点火された篝火は、次第に間空高く舞い上がり、輪をつくる人々の顔を赤く染めながら、翌朝、東の空がほんのり明るむころまで燃えつづきました。

厳粛な舞を披露 “屋形里神楽”

1月17日の日曜日、屋形・四社神社で、神楽保存会のみなさんが今年一年の五穀豊穡と地域のみなさんの無病息災を祈って“里神楽”を奉納しました。

屋形・四社神社の奉納神楽は、元禄年間（1688～1704年）に始められたと伝えられていますが、昭和30年代以降は、農村の生活様式の変化とともに見物人の数が減り、存続が危ぶまれる時期もあったようです。しかしながら、昭和45年に氏子有志によって保存会が結成されてからは、毎年1月の第3日曜日に奉納されており、今年も大勢の見学者を前に、天狗（猿田彦命）や白女命、八幡神など古代の神々の厳粛な舞が披露されました。

保存会のみなさん、由緒あるこの伝統芸能を後世にまで伝えていってください。



静々と優雅に舞う白女命